

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「天地の文」 教材名「天地の文」

2 単元の目標

近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる。この教材では、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

文語の意味が分からず止まる箇所は教材の解説で補い、まとめりごとの音読へ戻す。暗記できた量より、響きや調子を味わいながら読んでいる姿を捉える。想定する難しさは、意味や調子を確かめず、暗唱の速さだけを競う。評価では、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいるかを、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。教科書の文語調の文章を教師の範読に合わせて音読する。意味を確認する必要がある語を解説で確認し、響きや調子と浮かぶ様子を話す。読み方を試し、言葉のまとまりを確認。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

(2) 学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」 【めあて】昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・今と違う言い方でも、読んでいると調子を感じる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」 教科書の文語調の文章を教師の範読に合わせて音読する。意味を確認する必要がある語を解説で確認し、響きや調子と浮かぶ様子を話す。読み方を試し、言葉のまとまりを確認する。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・今と違う言い方でも、読んでいると調子を感じる。 ・言葉の意味を知ると様子を想像しやすい。	文語の意味が分からず止まる箇所は教材の解説で補い、まとまりごとの音読へ戻す。暗記できた量より、響きや調子を味わいながら読んでいる姿を捉える。 想定する難しさ：意味や調子を確認せず、暗唱の速さだけを競う。 評価では、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいるかを、意味を確認した語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 意味を確認した語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の意味を知ると様子を想像しやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」。中央は、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

